

令和 6 年度第 1 回八王子市血管まもろうプログラム懇談会

(八王子市糖尿病性腎症・CKD 重症化予防プログラム懇談会) 会議録(要旨)

1. 日 時 令和 6 年 4 月 25 日(木)19:00~20:15

2. 場 所 八王子市保健所 502 会議室

3. 出席者 (以下、敬称略)

東京医科大学八王子医療センター	松下 隆哉
東京医科大学八王子医療センター	尾田 高志
東海大学医学部附属八王子病院	角田 隆俊
八王子市医師会	鳥羽 正浩
八王子市医師会	永野 敦
八王子市医師会	太田 ルシヤ
八王子市医師会	好川 有希子
八王子市健康医療部長	菅野 匡彦
八王子市健康医療部成人健診課長	田島 宏昭
八王子市健康医療部成人健診課主査	葛西 希美

4. 会議の公開・非公開の別

非公開 八王子市情報公開条例第 8 条および八王子市付属機関及び懇談会に関する指針第 12-1-(2)による

5. 内 容

発言者	発言内容
1. 委員挨拶	
田島委員	前年度委員であった小竹主査が異動し、後任は葛西主査が務める。 市民参加条例に基づき実施、議事録作成のため録音することをご容赦いただきたい。
2. 血管まもろうプログラムの公表について	
田島委員	先生方の協力により冊子にまとめることができた。市のホームページでも公開しているが、市民向けではなく医療機関向けの冊子である。
葛西委員	「血管まもろうプログラム」の冊子について。本冊子は目的・背景から始まり、「尿中アルブミン(定量)検査」や「じんまもパス」について目的や実施方法、評価までを掲載している。最後には懇談会の委員名簿も掲載している。以上が血管まもろうプログラムの概要である。

3.進捗状況	
1) 尿中アルブミン(定量)検査について	
田島委員 事務局	次に尿中アルブミン(定量)検査について。 本日時点での進捗状況について。「尿中アルブミン(定量)検査実施要領」と「尿中アルブミン(定量)検査結果票」を、尿中アルブミン(定量)検査の実施登録医療機関91か所に送付している。 ＊実施期間:令和 6 年 6 月 1 日～令和 6 年 9 月 30 日 ＊想定人数:1145 名 ＊対象者への送付物(5 月 22 日送付予定) ・「至急開封」と赤字で印字した特定健康診査の封筒 ・「尿中アルブミン(定量)検査」と赤字で印字した特定健康診査の受診券 ・尿中アルブミン(定量)検査の実施方法等を掲載したチラシ 対象者全員に新規事業の説明を兼ねて受診券の発送後に電話入れを実施する。 尿中アルブミン定量検査を利用しなかった市民には、アンケートを送付し、未利用の理由を確認する予定。 登録医療機関では、特定健康診査と同時に尿中アルブミン(定量)検査の結果説明をしていただく。検査結果が「顕性アルブミン尿レベル(300mg/gCre以上)」は「じんまもパス」、「微量アルブミン尿レベル(30～299mg/gCre以上)」は、市にて実施する「じんまも面談(糖尿病性腎症重症化予防指導)」の対象となる。「微量アルブミン尿レベル」の市民には健康診査の受診月ごとに「じんまも面談」の案内通知発送や電話での利用勧奨で行う。 尿中アルブミン検査の結果は、尿中アルブミン(定量)検査結果票に記載し、複写式となっており、3 枚目(受診者控え)の裏が結果説明に使用できるリーフレットになっている。特定健診結果票にも特定健康診査結果とともに尿中アルブミン(定量)検査の結果を記載し、医師会に提出する。その後、医師会から市へ提出する流れである。健康診査を受診して、微量アルブミン尿レベルの市民に市から案内がいくまでに2か月ほどあるため、結果説明を受けてすぐに面談を利用したいという市民には電話で予約をしてもらう。なお、微量アルブミン尿レベル以外の糖尿病の市民への保健指導も、主治医からの紹介があれば実施可能である。電話での紹介を受け、事前情報や共有事項は糖尿病連携手帳で確認したいと考えている。
2)八王子じんまもパスについて	
事務局	八王子じんまもパス、CKD 病診連携パスについて。 ＊じんまもパスの適用基準 特定健診の結果、以下のいずれかに該当する 40 歳～74 歳までの国民健康保険被保険者 ・尿たんぱく(++)以上 ・尿たんぱく(+)かつ尿潜血(+) ・eGFR が 30ml/分/1.73 m²未満 または、尿中アルブミン(定量)検査登録医療機関で実施した尿中アルブミン検査の結果、 ・顕性アルブミン尿レベル(300mg/gCre以上)に該当した市民 ＊使用する書類

	・「八王子じんまもパス精密検査依頼書兼結果報告書」 ・「市民説明用チラシ 腎臓専門医の受診が必要な方へ」 ・「じんまも用封筒」 じんまもパスの適用できる腎臓専門医は、八王子医療センター、東海大学八王子病院をはじめとした 5 病院。 じんまもパス該当となった場合には、「八王子じんまもパス精密検査依頼書兼結果報告書」に結果を記載する。特定健康診査結果票にも結果を記載してコピーをとり、「八王子じんまもパス精密検査依頼書兼結果報告書」の 1-3 枚目と健診結果票のコピーを「じんまもパス用封筒」に入れて、該当者に渡す。市民説明用のチラシは該当者への説明時に使用する。 該当者本人は、本人からチラシのリストにある腎臓専門医を予約、受診となる。腎臓専門医の先生は治療方針の決定後、市に「八王子じんまもパス精密検査依頼書兼結果報告書」を送付し、市が結果集約、精度管理をする。健診医療機関には、医師会を通して結果を送付、今後の治療や指導にお役立てしてもらう。 書類作成費用は、特定健診結果説明業務に含まれるため、市、パス該当者いずれにも請求できない。じんまもパス該当者がチラシのリスト記載の医療機関以外を希望する場合は、通常の診療報酬提供書を使用する。 《じんまもパスの運用スケジュールについて》 特定健診の結果票や医療機関のレセプト情報は2か月後に市に納品される。腎臓専門医の先生からの結果票が届けば、レセプト確認前でも市で結果把握可能。特定健診の結果票でじんまもパス該当がついているにもかかわらず、結果票やレセプトでの腎臓専門医の受診が確認とれない場合は、電話や郵送にて受診確認、受診勧奨をする予定。評価については、はちおうじ血管まもろうプログラムの8ページに記載してある方法で行う予定。
質疑応答	
田島委員	各腎臓専門医毎にカルテ管理手法が異なるため、よりよい連絡手段を検討中。特定健診は後半に予約が集中する傾向にある。
永野委員	尿中アルブミン検査の終了時期を前に持つてくることで時期ごとの業務量を調整したい。
田島委員	紹介状の記載方法として、「内科」「腎臓内科」の 2 パターンがあるがどちらが良いか腎臓内科に問い合わせてもらいたい。じんまもパス専用の予約枠設定を検討いただいている病院もある。
太田委員	大腸がんの時は健診を行った医療機関が紹介状に返信用封筒を同封するが、じんまもパスでは同封しないのか。
葛西委員	大腸がん検診とは運用が異なり、腎臓専門医側に封筒を配備するため、健診医療機関が返信用封筒を同封する必要はないが、取り扱いについては周知をはかり、来年度以降は改めて方法を検討する。
好川委員	9 月 30 日までに受けられなかった尿中アルブミン(定量)検査の対象者が来年度も対象となることは確定しているのか。
事務局	確定していない。令和 6 年度の結果をもって、令和 7 年度の対象者が決まるため。

好川委員 事務局	なぜ 9 月 30 日までしか受けられないのか。 令和 5 年度の結果でリスクのある方を対象としている検査のため、なるべく早めに検査をうけて いただきたいという意味を込めている。
太田委員	受診券の記載方法が「尿中アルブミン(定量)検査」の近くに「9 月 30 日まで」と記載した方が分 かりやすいのではないかな。
鳥羽委員	特定健診も 9 月 30 日までと思ってもらった方が早めに受けてくれるのではないかな。
菅野委員	健診実施期間を短く設定している自治体の健診受診率の方が高いという成果もあるため、検討 したい。
4.今後のスケジュール、精度管理について	
田島委員 葛西委員	6 月 1 日から特定健診が始まり、事業を実施していく。 ・尿中アルブミン検査の対象人数計 1145 名 資格喪失などで、更に少なくなる予定。 ・尿中アルブミン検査登録医療機関は、令和 6 年度は 91 医療機関の参加。翌年度の登録につ いての質問も医療機関から既にくている。既に登録している医療機関は書面で意向調査し、新 規のみ説明会への参加を求めるという形式で実施を検討している。 ・じんまもパスの対象人数想定 R5年度 959 人 ・現在、腎臓専門医を訪問し、予約受付体制などをうかがっている。
鳥羽委員	市民からの問い合わせ、予約対応のため、医療機関間でそれぞれの予約状況について情報共 有したい。
田島委員	情報集約は市で行い、医師会の協力を得ながら周知も行う。
鳥羽委員	健診医療機関から案内する時点の予約状況と、実際に市民が腎臓専門医に連絡する際の予約 状況は変わってくる。腎臓専門医間での情報共有がこまめに行えるとサービス向上につながる。 尿中アルブミンの対象人数 1,145 人のうち、顕性となる方はどれほどの人数見込まれるか。多く なり過ぎないか懸念している。保険診療で検査も可能な HbA1c が 6.5%以上の対象者も含ま れているが、理由はあるか。
事務局	前回健診 HbA1c6.5%以上だったが、その後も未治療の方についてはリスクを本人に認識して もらう機会が必要との意見もあったため、尿中アルブミン検査の対象としている。
永野委員 事務局	じんまもパスを活用せず、健診を行った医療機関で直接糖尿病の治療にあたっても良いか 健康診断を行った医師の判断に委ねる。「当院で治療するため不要」といった判断も可。 他市の基準はそれぞれ異なるため、一概には言えないが検査受診率自体は高くて 7 割ほどなの で検査を受ける人が 900 人程度、顕性までいく方は 300 人程度を想定している。
菅野委員	大腸がん検診での経験を踏まえると、健診事業においては定量よりも定性として基準設定して いる方が対象人数は多くなる。実際のところはやってみないとわからないが、定量検査を行うこ とで対象人数が予想以上に増えることは考えにくいのではないかな。
松下委員	定量検査と定性検査の陽性率に大差が出るとは思えない。
角田委員	まずは実施し、課題を共有していくのがよいのではないかな。
田島委員	意見を参考に、円滑に事業が進むようにしていきたい。

5. 八王子血管まもろうプログラムの事業評価項目について	
葛西委員	令和 6 年度対象者が尿中アルブミン検査を受診した後、微量アルブミン該当者はじんまも面談でサポートしていく。改善状況についても評価するため、尿中アルブミン量の推移を追跡したい。そのため、6 年度に微量アルブミンレベルだった者は令和 7 年度も引き続きアルブミン検査を行いたい。
太田委員	75 歳で後期高齢者になる方については保険が変わることから、追跡して状況を確認することは難しいと思う。国民健康保険外になってもフォローすべきだと思うが、2 年目以降検査を行う対象範囲は今後判断すべきだと思う。
鳥羽委員	比較対象として検査未受診者も引き続き対象としたらどうか。 最終的に 5 年追跡を行う決定をするならば、事前に 70 歳まで等対象年齢を決定すべき。
田島委員	他市での実績もなく、方針決定に苦慮するところはあるが、一定の方針を決定し進めていきたい。
菅野委員	年齢を基準とすることは前向きに検討したい。初めての事業のため、事業評価は行いたい。 また、医療機関での健康診断事業への影響についても確認しつつ、混乱・無理なく精度管理が行えるよう 2 年目以降の対象者について決定していく。
田島委員	予算要求時期と次回打合せは近接した時期を予定している。 対象人数や医療機関側での受け止め方についても確認できる状況になると思う。
6. 今後の調整事項	
田島委員	次回開催は 9 月 30 日(月)を予定。場所は別途確定し連絡する。
葛西委員	来年度のアルブミン検査登録医療機関について、現在の 91 医療機関から増やす方向で考えているが、既に登録いただいている医療機関は書面確認のみとし、新規希望のみ説明会への参加を求めるのはどうか
鳥羽委員	説明会で今年度の総括ができるのであれば、それも含めて行えるとい
菅野委員	更新のみはオンラインなども考えられるか。
事務局	検討していく。
菅野委員	ありがとうございました。八王子市は自治体代表として専門医のグループに参加し、全国での実施を想定した標準プログラムを作成したが、国の補助制度は画一化されており、各地域の医療資源の状況に合わせると完全には一致せず、持ち出しが発生する可能性がある。プログラムに縛られることも多いが、精度管理も含め、全国自治体にフィードバックを行いたい。

以上